主要国の野菜の生産動向等

調査情報部

1　中国

日本が輸入するねぎのほとんどが中国産であることから、今月号では、主産地の山東省を中心に中国のねぎの生産動向等を紹介する。

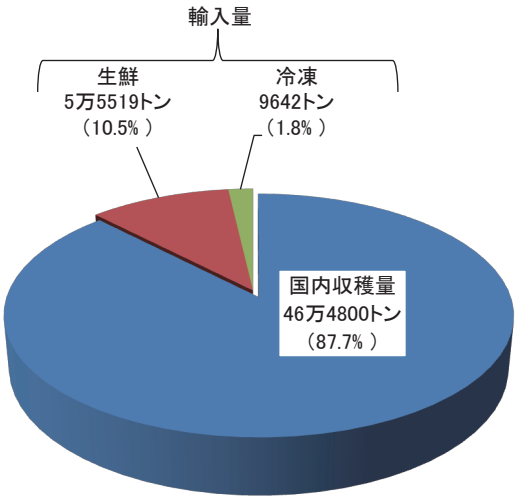
(1)　日本における中国産ねぎの位置付け

2016年の日本のねぎ供給量の９割弱は国産品であり、１割は輸入生鮮品で、わずかに輸入冷凍品もある（図１）。輸入生鮮品、輸入冷凍品ともにほぼ全量が中国産となっている（表１）。

ここ数年の生鮮ねぎの輸入量は、2015年までは増加傾向で推移していたものの、2016年は前年を2.2%下回る5万5519トンとなった。わずかにベトナムから輸入する年もあるが、先述の通りほぼ全量を中国から輸入している（図２）。中国産生鮮ねぎの輸入量を月別に見ると、毎月一定以上の数量が輸入されている（図３）。輸入単価は、年により異なるが、2016年は、後述する山東省の卸売価格と同様、上半期が高く、下半期が低い傾向にあった。

本稿中の為替レートは１元＝17円（2017年10月末日ＴＴＳ相場：17.35円）を使用した。

図１　日本のねぎ供給量（2016年）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）、農林水産省「野菜生産出荷統計」、農林水産省「植物防疫統計」
注１：冷凍ねぎについては、「植物防疫統計」の検査数量の数値である。
注２：カッコは全体に占める割合である。
注３：HSコードは070390010

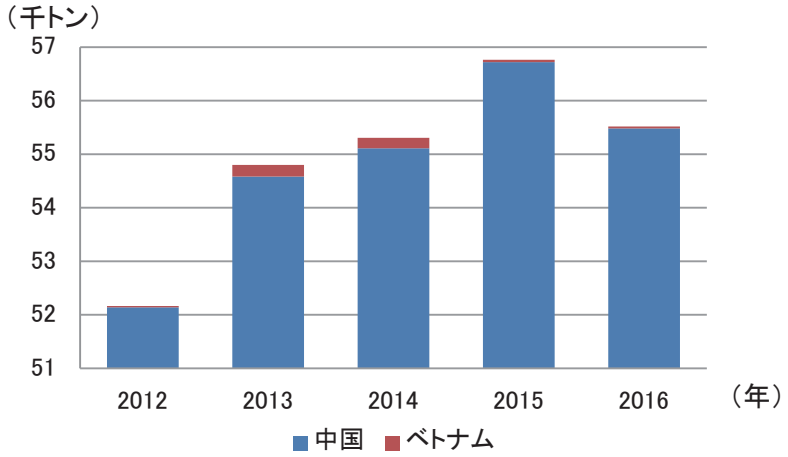
表１　ねぎの生鮮・冷凍別国別輸入量（2016年）

（単位：トン）

品目	生鮮ねぎ			冷凍ねぎ		
	輸入先国	輸入量	シェア	輸入先国	輸入量	シェア
第１位	中国	55,483	99.9 %	中国	9,609	99.7 %
第２位	ベトナム	36	0.1 %	タイ	32	0.3 %
第３位				ベトナム	0.1	0.0 %
第４位				フィリピン	0.001	0.0 %
－	その他	－		その他	－	－
全輸入量		55,519	100 %		9,642	100 %

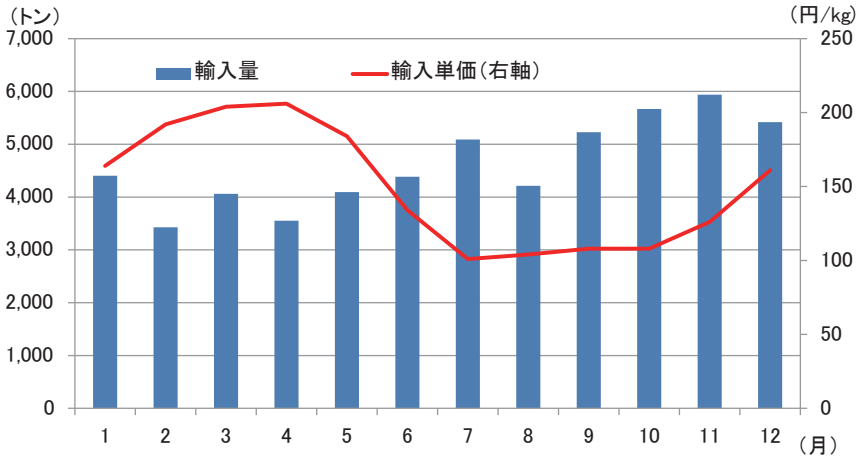
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）、農林水産省「植物防疫統計」
注：冷凍ねぎについては、「植物防疫統計」の検査数量の数値である。

図２　日本の生鮮ねぎの国別輸入量



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

図３　中国産生鮮ねぎの月別輸入量および輸入単価（2016年）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

（2）生産動向

中国のねぎの主産地は、作付面積の約15%を占める山東省で、その中でも、済南市章丘区(注)と潍坊市安丘市は、合わせて山東省の作付面積の約63%を占める（図４、写真１）。

山東省のねぎ栽培は、90%が露地栽培で、10%が施設栽培である。露地栽培は主に、９月下旬に播種、翌年の６月に定植、９～10月に収穫する一方、施設栽培は、さまざまな生育ステージがある（図５）。品種もさまざまであるが、潍坊市安丘市では、日本品種である「元蔵」、「長宝」、「天光一本」の作付面積が４分の３以上を占めている（表２）。

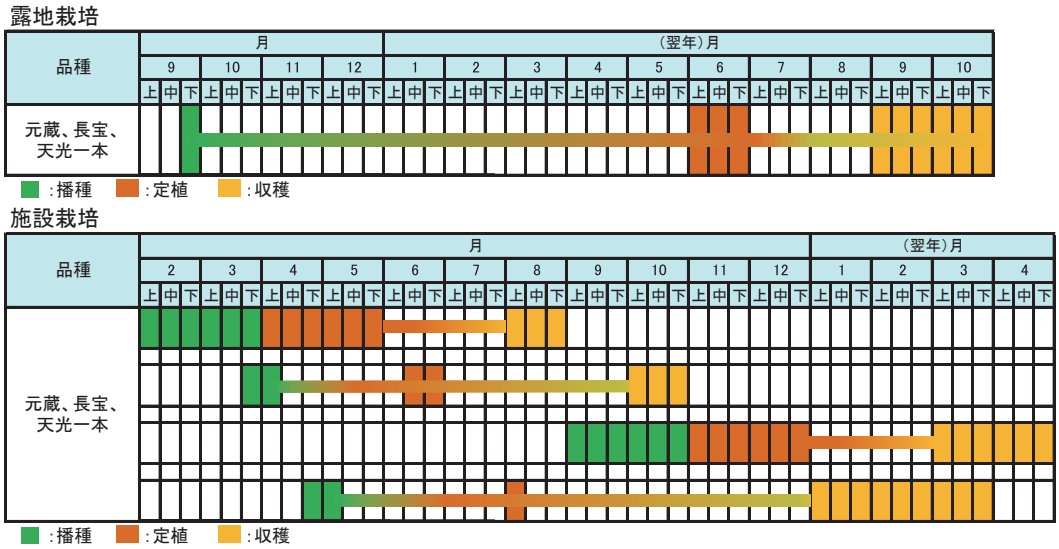
注：中国では、大きい行政区分から順に、「省級（省、直轄市など）」、「地級（地級市、自治州など）」、「県級（県、県級市、市轄区など）」などとなっており、済南市と潍坊市は地級市であり、章丘区、安丘市は県級である。

図４　山東省のねぎ主産地

資料：機構作成

写真１　済南市章丘区の圃場の様子

図５　山東省のねぎの生育ステージ



資料：聞き取りにより機構作成
注：本図は、播種、定植、収穫が最も集中する時期を表しており、それぞれの作業は前後の時期にも実際には行われているとみられる。

表２　山東省潍坊市安丘市の主要作付け品種

品種	写真	成熟度合	特徴
元蔵		中早熟	抗病性、耐倒伏性が強い。
長宝		晩熟	低温時に葉の色が褪せにくい。葉が折れにくい。耐寒性、抗病性が強い。
天光一本		早熟	太くて大きい。耐寒性、抗病性、耐倒伏性が強い。

資料：聞き取りにより機構作成

近年の山東省における生産動向について見ると、作付面積および収穫量ともに、2014/15年度（10月～翌9月）に一時的に落ち込んだものの、その後は増加傾向で推移している。2016/17年度は、2015年後半からの価格上昇により生産者が作付面積を増加させたため、収穫量は前年度を約２割上回る151万トンとなった（表３）。

表３　山東省のねぎの作付面積、収穫量および単収の推移

年度	作付面積（万 ha）	前年度比（増減率）	収穫量（万トン）	前年度比（増減率）	単収（トン／10a）	前年度比（増減率）
2012/13	2.8	－	140	－	5.0	－
2013/14	3.0	7.1%	165	17.9%	5.5	10.0%
2014/15	2.3	▲ 23.3%	110	▲ 33.3%	4.8	▲ 12.7%
2015/16	2.5	8.7%	125	13.6%	5.0	4.2%
2016/17	3.2	28.0%	151	20.8%	4.7	▲ 6.0%

資料：山東省農業庁種植業管理処への聞き取りを基に機構作成
注１：年度は10月～翌９月
注２：2016/17年度は見込み値

（3）生産コスト

山東省の10アール当たり生産コストの動向を見ると、2016/17年度は5962元（10万1354円、2013/14年度比42.5%増）と、大幅に増加した（表４）。項目別に見ると、近年の中国の野菜栽培で常態化している土地代と人件費の上昇に加え、肥料農薬費なども増加している。肥料農薬費のうち、特に肥料費が増加しているが、これも肥料製造に係る人件費の上昇によるものである。

表４　ねぎの10アール当たり生産コスト（山東省潍坊市安丘市）

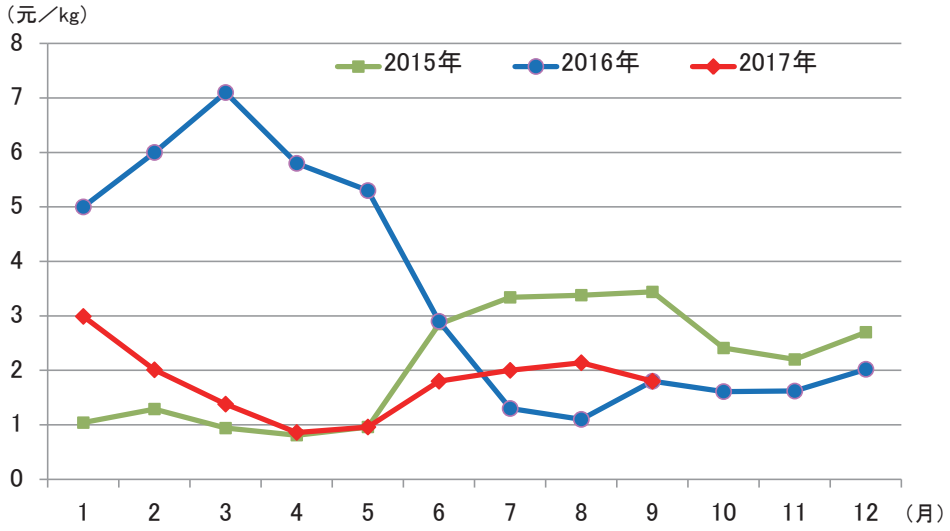
項目	2013/14 年度（元／10a）	円換算	2016/17 年度（元／10a）	円換算	2016/17 年度／2013/14 年度比（増減率）
土地代	1,350	22,950	1,950	33,150	44.4%
種苗費	600	10,200	660	11,220	10.0%
肥料農薬費	660	11,220	727	12,359	10.2%
資材費	150	2,550	150	2,550	0.0%
農機具費	180	3,060	180	3,060	0.0%
人件費	1,200	20,400	2,250	38,250	87.5%
その他	45	765	45	765	0.0%
合計	4,185	71,145	5,962	101,354	42.5%

資料：山東省農業庁種植業管理処、安丘市農業局への聞き取りを基に機構作成
注１：四捨五入や為替換算の関係から、項目間の計算において、誤差が生じることがある。
注２：2016/17年度は見込み値

（4）価格動向

山東省のねぎの価格については、2014/15年度の作付面積の減少に加え、2015年の年末の寒波により、市場への供給量が減少したことに伴い、2015年12月以降上昇し、2016年３月には１キログラム当たり７．１元（121円）と高騰した。しかし、４月ごろになると、主産地の一つである福建省で収穫されたねぎが出回り始めたことに加え、７月前後に販売された小ねぎが一部代替したこと、2015/16年度の露地栽培の収穫が８月前後に始まったことから下落した（図６）。

図６　ねぎの卸売価格の推移（山東省）



資料：中国･寿光農産品物流園

（5）国内向け出荷動向

山東省で収穫されたねぎの９割以上は、国内に仕向けられており、主な出荷先は、北京や天津などの近郊の大都市である（写真２、３）。

写真２　収穫されたねぎを運搬する様子

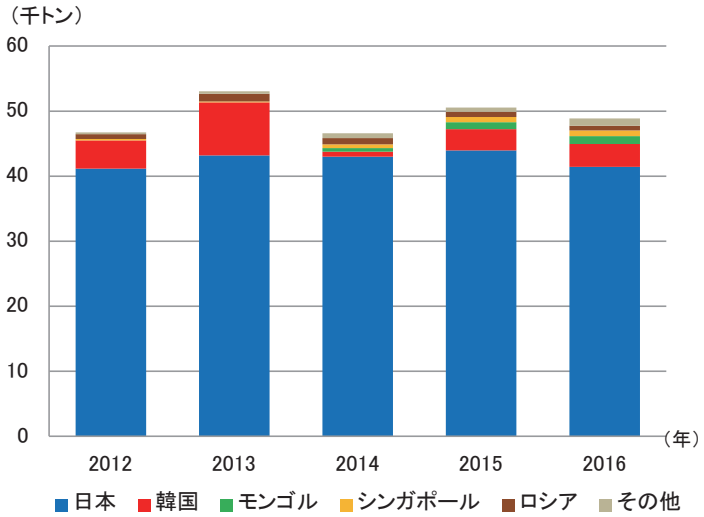
写真３　北京市内のスーパーで販売されているねぎ

（6）輸出動向

ここ数年の中国の生鮮ねぎの輸出量は、年間５万トン前後で推移しており、2016年は前年を3.3％下回る４万8878トンとなった。このうち６割前後が山東省産である。輸出形態は生鮮、冷凍、乾燥の３種類があるが、大半は生鮮である。

国別では、日本向けが８割以上を占めており、日本向けの主な品種は、先述の「元蔵」、「長宝」、「天光一本」などである。日本以外には、韓国、モンゴル、シンガポールなどの近隣諸国に主に輸出されている。（図７）。

図７　中国の生鮮ねぎの国別輸出量



資料：「Global Trade Atlas」
注：ＨＳコードは07039020。

2　米国

米国からは、日本への輸出が多いブロッコリー、レタス、セルリー（セロリ）（以下「セルリー」という）について、それらの主産地であるカリフォルニア州の生産動向などを紹介する。

（1）　ブロッコリー、レタス、セルリーの生産動向

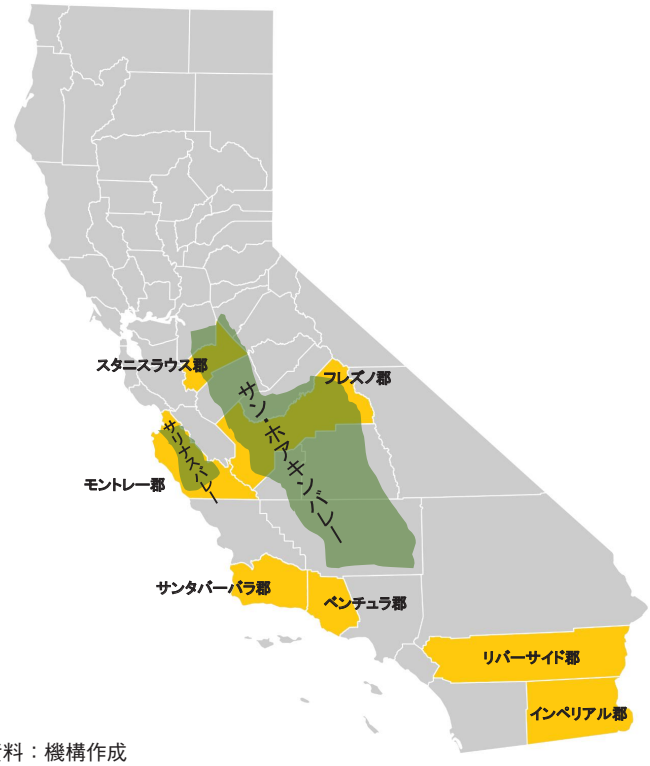
ア　ブロッコリー

（ア）　作況および作付面積

現地報道によると、9月初旬、モントレー郡サリナスは、40度を超える熱波に見舞われたことから、同月の収穫量が減少した。また、一部の生産者からは、品質にバラツキがみられたほか、全体的に小ぶりで芯に空洞ができ、茶色に変色したとの報告があった。10月初旬も同様の傾向で推移した。

以下、本稿中の為替レートは、１米ドル＝114円（2017年10月末日ＴＴＳ相場：114.16円）を使用した。

図１　カリフォルニア州の地図



資料：機構作成

（イ）生産者価格

2017年8月の生鮮ブロッコリーの生産者価格は、7月中旬以降の低温による生育遅れにより、供給量が減少した一方、需要は堅調であったことから前年同月比2.2倍の１キログラム当たり1.37米ドル（156円）となった（表１）。

9月14日時点の販売価格は、同月初旬の熱波により前週から5割程度値上がりし、１カートン（14個入り）当たり16.55～18.56米ドル（1キログラム当たり1.59～1.78米ドル：181～203円）となった。9月28日時点では同25.45～27.55米ドル（同2.45～2.65米ドル：279～302円）とさらに上昇した。

表１　全米の生鮮ブロッコリーの生産者価格

（単位：米ドル/kg）

	2016年					2017年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
生産者価格	0.62	0.81	0.83	0.79	0.77	1.23	1.19	1.56	2.11	1.82	1.11	1.12	1.37

資料：米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）

（ウ）　対日輸出動向

2017年8月のブロッコリーの対日輸出量は、供給量の減少により前年同月比27.8％減の1995トンであった（表２）。また、輸出単価は同4.1％高の１キログラム当たり1.26米ドル（144円）であった。

表２　米国産ブロッコリーの対日輸出量および輸出額

（単位：トン、千米ドル、米ドル/kg）

	2016年					2017年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
輸出量	2,761	3,628	3,829	3,837	1,696	1,271	1,027	559	723	1,528	1,960	1,295	1,995
輸出額	3,331	4,013	4,574	4,740	2,192	1,676	1,377	797	905	2,234	2,675	1,694	2,517
単　価	1.21	1.11	1.19	1.24	1.29	1.32	1.34	1.43	1.25	1.46	1.36	1.31	1.26

資料：米国農務省海外農業局（USDA/FAS GATS Database）

（エ）　東京都中央卸売市場の入荷量および価格

2017年８月の東京都中央卸売市場の米国産ブロッコリーの入荷量は、前年同月比17.8%減の97トンであった（表３）。また、卸売価格は、同9.7％高の１キログラム当たり340円であった。なお、同月に同市場で最も入荷量が多かったのは北海道産で、入荷量は同14．6％増の1174トン、卸売価格は米国産を大幅に上回る同430円であった。

表３　東京都中央卸売市場の米国産ブロッコリーの入荷量および平均卸売価格

（単位：トン、円/kg）

	2016年					2017年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
入 荷 量	118	160	189	150	143	69	39	41	41	65	90	94	97
卸売価格	310	379	398	351	314	304	319	252	324	340	337	308	340

資料：東京都中央卸売市場

イ　レタス

（ア）作況および作付面積

現地報道によると、9月は、初旬の熱波により、中下旬の結球レタスおよびロメインレタスの収量および品質の低下がみられた。供給量が減少する一方、需要が堅調だったことにより、結球レタスの価格は上昇した。10月初旬においても、結球レタスの供給量に対して需要が堅調なため、価格は高値であった。

（イ）生産者価格

2017年8月の結球レタスの生産者価格は、供給増により安値となった前年同月よりも17.4％高となったものの、供給量が多かったことから１キログラム当たり0.54米ドル（62円）と安定して推移した（表４）。

９月14日時点のサリナス産の販売価格は、結球レタスが1カートン（24個入り）当たり7.05 ～ 8.56米ドル（1キログラム当たり0.31 ～ 0.38米ドル：35 ～ 43円）、

ロメインレタスが同9.56 ～ 11.55米ドル（同0.42 ～ 0.51米ドル：48 ～ 58円）、グリーンリーフレタスが同8.45 ～ 9.65米ドル（同0.37～0.43米ドル：42 ～ 49円）であった。

翌週以降、同価格は、供給量の減少により上昇し、9月28日時点では、結球レタスが同21.50 ～ 22.55米ドル（同0.95 ～ 0.99米ドル：108 ～ 113円）、ロメインレタスが同12.55 ～ 14.56米ドル（同0.55 ～ 0.64米ドル：63 ～ 73円）、グリーンリーフレタスが同14.00 ～ 16.95米ドル（同0.62 ～ 0.75米ドル：71 ～ 86円）となった。

表４　全米の結球レタスの生産者価格

（単位：米ドル/kg）

	2016年					2017年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
生産者価格	0.46	0.46	0.45	0.59	0.67	0.64	1.13	1.09	1.82	0.58	0.50	0.56	0.54

資料：米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）

（ウ）対日輸出動向

2017年８月の結球レタスの対日輸出量は、前年同月比2.3倍の743トンで、輸出単価は同7.7％安の１キログラム当たり0.96米ドル（109円）であった（表５）。

また、結球レタス以外のレタスの対日輸出量は、同7.3倍の29トン、輸出単価は同8.0％安の同2.98米ドル（340円）となった（表６）。

表５　米国産レタスの対日輸出量および輸出額（結球レタス）

（単位：トン、千米ドル、米ドル/kg）

	2016年					2017年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
輸出量	330	389	458	505	233	150	103	64	65	181	137	279	743
輸出額	342	435	490	531	277	188	111	85	67	178	159	291	710
単　価	1.04	1.12	1.07	1.05	1.19	1.25	1.08	1.34	1.03	0.98	1.16	1.04	0.96

資料：米国農務省海外農業局（USDA/FAS GATS Database）

表６　米国産レタスの対日輸出量および輸出額（結球レタス以外）

（単位：トン、千米ドル、米ドル/kg）

	2016年					2017年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
輸出量	4	50	1,197	417	78	4	5	75	60	32	1	－	29
輸出額	12	99	2,478	899	258	16	18	87	81	30	4	－	85
単　価	3.24	1.99	2.07	2.15	3.31	4.32	3.46	1.16	1.35	0.94	4.00	－	2.98

資料：米国農務省海外農業局（USDA/FAS GATS Database）

（エ）　東京都中央卸売市場の入荷量および価格

2017年8月の東京都中央卸売市場の結球レタス以外の米国産レタス（ロメインレタス、フリルレタスなど）の入荷量は、前年同月比2.01倍の1.0トンであった（表７）。また、卸売価格は、同73.5％安の１キログラム当たり137円であった。なお、同月に同市場で最も入荷量が多かった結球レタス以外のレタスは長野産で、入荷量は同7.5％減の204トン、卸売価格は米国産を大幅に上回る同257円であった。

表７　東京都中央卸売市場の米国産レタスの入荷量および平均卸売価格（結球レタス以外）

（単位：トン、円/kg）

	2016年					2017年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
入 荷 量	0.5	0.4	1.6	1.6	0.5	0.2	0.5	0.6	－	0.2	0.4	0.2	1.0
卸売価格	518	518	239	106	518	518	518	518	－	290	518	119	137

資料：東京都中央卸売市場

ウ　セルリー

（ア）作況および作付面積

現地報道によると、9月は、供給量が十分であったことに加え、品質は良好であった一方、需要が低調であったため、低価格で推移した。特に、サリナス産およびサンタバーバラ郡サンタマリア産は下落傾向で推移した。10月初旬、品質は良好で、価格は横ばいで推移していた。

（イ）生産者価格

2017年８月のセルリーの生産者価格は、１キログラム当たり0.39米ドル（44円）と前年同月を8.3％上回ったものの、需給の緩和により前月から大幅に下落した（表８）。

９月中旬以降、サリナス産セルリーの販売価格は１カートン（24茎）当たり平均８米ドル程度で安定的に推移しており、10月6日時点では、同7.45 ～ 8.56米ドル（１キログラム当たり0.27 ～ 0.31米ドル：31 ～ 35円）であった。

表８　全米の生鮮セルリーの生産者価格

（単位：米ドル/kg）

	2016年					2017年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
生産者価格	0.36	0.35	0.41	0.59	0.38	0.39	0.34	0.54	0.87	1.76	0.93	0.61	0.39

資料：米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）

（ウ）対日輸出動向

2017年8月のセルリーの対日輸出量は、前年同月比0.8％増の607トンで、輸出単価は同23.5％安の１キログラム当たり0.65米ドル（74円）であった（表９）。

表９　米国産セルリーの対日輸出量および輸出額

（単位：トン、千米ドル、米ドル/kg）

	2016年					2017年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
輸出量	602	597	620	819	431	696	534	797	554	480	526	486	607
輸出額	511	400	417	625	315	444	340	439	371	469	517	325	397
単　価	0.85	0.67	0.67	0.76	0.73	0.64	0.64	0.55	0.67	0.98	0.98	0.67	0.65

資料：米国農務省海外農業局（USDA/FAS GATS Database）

（エ） 東京都中央卸売市場の入荷量および価格

2017年８月の東京都中央卸売市場の米国産セルリーの入荷量は24トン（前年同月比11.1％減）で、卸売価格は１キログラム当たり231円（同14.9％高）であった（表10）。なお、同月に同市場で最も入荷量が多かったセルリーは長野産で、入荷量は前年同月比13.2％減の701トン、卸売価格は米国産をわずかに上回る同252円であった。

表10　東京都中央卸売市場の米国産セルリーの入荷量および平均卸売価格

（単位：トン、円/kg）

	2016年					2017年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
入 荷 量	27	26	32	33	37	27	27	33	32	24	9	23	24
卸売価格	201	209	214	210	212	202	204	204	213	242	398	245	231

資料：東京都中央卸売市場